

礫土の丘の叙情詩

Lyric of Stony Hill

日比野ルミ

Rumi Hibino

現象、事件自体は今に始まった事ではないにしても、情報が瞬時に伝達されるようになり、目を覆いたくなるような報道が相次ぐ世の中になった。知らないでよいことが明らかになる反面、知るべきことが曖昧に認識されていくことを危惧する。また、日本人が大切にしてきた徳の文化が、そのままにしておいたら無くなってゆくのではないかと寂しい気持ちになる。今、私達に必要なことは、合理的に生きることだけではないはずだ。豊かな人間の心を忘れてはならないし、知らない世代が仮にあるならば、知る世代が示していかなければならない。そ

こに美術の大切な役割があると考えている。

荒廃しきっているわけではない。ただ、すでに肥沃な大地ではないところで、しっかりと根をはって生きることが大切だ。その精神のプロセスを絵画で表現したいという思いで制作した。これまでのインスタレーション制作のスタンスから絵画制作のスタンスに移行してきていると自分では感じている。

なお、作品に添えた以下の文章は、私の制作メモなどから抜粋し構成した。



雨の日

(2006-2007)
パネル 麻布 膠
アクリル 油彩
103×73cm



静寂なる瞑想の景
その明るさとも暗さとも
捉えられる中に浮かぶのは
もの言わぬ、いのちたち。

劣悪環境の中において
あるものは瀕死の状態、
また、あるものは、むしろ
たくましい生命力をみなぎらせている。

雄大さや力強さだけが美ではない。
弱々しきものの凛とした態度で刻む時間や、
小さきものの楚々とした佇まいの中にこそ
美としての存在は静かに輝く。



たち顕れた、この心の庭の
次なる軌跡を描くには、
全ての内なる変容が
求められているのだろう。

(2006年9月27日)



■ 群生

(2006-2007)
パネル 麻布 膠
アクリル 油彩
130×162cm

■ 実り、あるいは暁

(2006-2007)
パネル 麻布 膠
アクリル 油彩
162×130cm

■ 闇のなかで咲く

(2006-2007)
パネル 麻布 膠
アクリル 油彩
130×162cm

■ 雨のあとに

(2006-2007)
パネル 麻布 膠
アクリル 油彩
73×103cm



□ 芳春を待つ
 (2006-2007)
 パネル 麻布 膠
 アクリル 油彩
 103×73cm

□ 野ばらの精 (Echeveria)
 (2006-2007)
 パネル 麻布 膠
 アクリル 油彩
 117×91cm

□ 時の間
 (2006-2007)
 パネル 麻布 膠
 アクリル 油彩
 65×53cm

表層の色や形を
 わかりやすく分類することで
 私達は擬似的安息感を手に入れる。
 本質が置き去りにされる。

そこには、確かに不穏なものが潜む。
 人間としての重大な欠如。
 見過ごされる。
 そして、すり替わる。

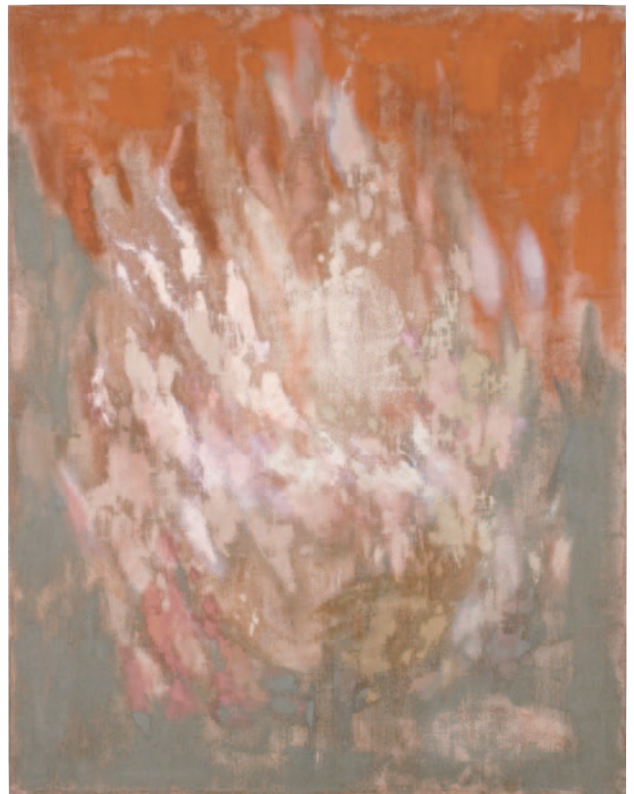
世界の、人生の、在りようを
 客観的に見通せる人間など
 本当にいるのだろうか。
 誰も真実は語れないことを共感し、
 主観を受容する。

小さいこと、弱さの真の価値は
 いつか表層にもはっきりと顕れてくるはず。
 つかむことの退化を克服し
 当事者としての存在でありたい。

(2006年12月9日)



白い花を
(2006-2007)
パネル 麻布 膠 アクリル 油彩
162×130cm



運動場の片隅で
小石混じりの地面に描いていた
遠い記憶

早朝には湿っていて
昼過ぎには乾燥し
夕方には再び水分がしみだしてくる
地表のいとなみ

風が季節を運び
私はただ地面とたわむれていた
その懐かしい感覚をふと思い出した
小さいのちの終りに立ち会ったときのこと
(2007年1月10日)

受容すること
その中にかすかな希望の光を見る
(2007年1月29日)

■ 受容の樹

(2006-2007)
パネル 麻布 膠
アクリル 油彩
117×91cm

■ 包容の樹

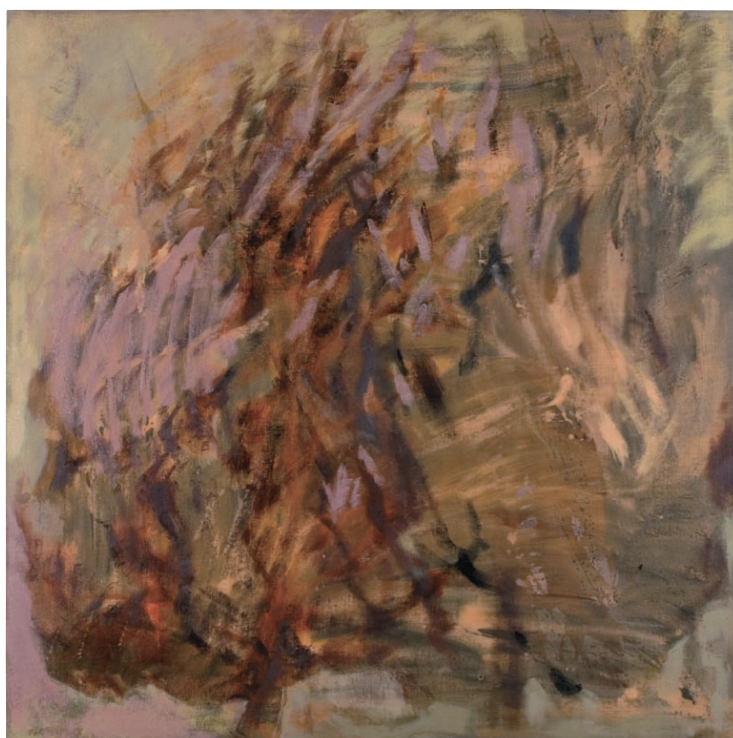
(2006-2007)
パネル 麻布 膠
アクリル 油彩
117×91cm

■ 樹木精霊

(2006-2007)
パネル 麻布 膠
アクリル 油彩
117×91cm



偶有の樹
(2006-2007)
パネル 麻布 膠
アクリル 油彩
162×162cm



風とともに
(2006-2007)
パネル 麻布 膠
アクリル 油彩
162×162cm

うつろう風景、その始まりはいつも冬。
私はこの原野の緊張感が、とても好きだ。
無限の可能性と創造性に心が躍る。

(2006年2月20日)